

(特非) 山村塾

農山村における災害復興と持続可能な地域づくりを目指した「笠原復興支援センター」

助成活動がメディア
に掲載された回数

4 回

流通している
棚田米

116.5 俵

活動の全体目標
に対する達成度

60%



無農薬実験田での米づくり 田植え

◆成果と工夫したポイント

- 成果** 長期滞在ボランティアプログラムを2回実施し、計14名が活動した。97名の棚田米サポーターから116.5俵の申込を受け付けた。無農薬実験田(46a)の管理を継続し17.5俵の収穫ができた。
- 工夫** 地域農家だけではなく、地域外(県外、海外)の人と共に、笠原地域の米づくりに取り組んだこと。

課 題

平成24年九州北部豪雨災害により、家屋や農林地に多くの被害を受け、人口減少や耕作放棄地の増加が急速に進んでいる。小学校の閉校も重なり、地域力が低下している。

活動内容

①棚田の保全を目指し、無農薬や減農薬の特別栽培米づくりに、地域農家とともに取り組み、それを推進するための棚田米サポーターを募集する。②アジアにおける環境保全活動リーダーを育成することを目指し、国内外からボランティアを募り、80日間の長期滞在ボランティアプログラムに取り組む。③復興への取組みと持続的な農山村を目指し、企業や大学、自治体などとの連携を促進する復興支援センターの立ち上げを目指す。



無農薬実験田での稲刈り 祝!無事収穫

今後の課題

特別栽培米への移行に力を入れ、棚田米200俵の流通を目指す。また、新たに耕作放棄地1haを借り受け、その管理を地域住民と長期滞在ボランティアで行う体制を整える。